

令和8年度 全国学力・学習状況調査の分析 河内長野市立加賀田中学校

全国学力・学習状況調査の概要

国語

設問番号	学校の 平均正答率
①一	80.3 —
①二	60.7 —
①三	77.0 —
②一	73.8 +
②二	68.9 —
②三	67.2 —
②四	50.8 —
③一	36.1 —
③二	98.4 +
③三	70.5 +
③四	50.8 +
④一	72.1 +
④二	41.0 +
④三	72.1 +
④四	41.0 +

概要

本校の平均正答率は64%であり、府61%と全国63.9%の平均正答率をともに上回った。また、「知識・技能」の観点では、大阪府と全国の平均正答率を下回ったが、「思考・判断・表現」の観点では、大阪府と全国の平均正答率を上回った。

特に成果が見られた問題例

正答率が高く、全国の平均正答率を大きく上回った問題は、③の二・三であり、表現の効果や文章の展開の工夫を問うものであった。

授業の中で語彙力を高める取り組みを継続してきたことの成果だと考えられる。

特に課題が見られた問題例

大阪府や全国の平均正答率を下回った問題は、①の一・二・三であり、文法の知識を問うものであった。文法の知識定着に向けて、今後の反復練習が必要だと考えられる。

数学

設問番号	学校の 平均正答率
①	87.1 +
②	72.6 +
③	43.5 —
④	48.4 —
⑤	48.4 —
⑥(1)	77.4 +
⑥(2)	64.5 —
⑥(3)	43.5 —
⑦(1)	69.4 —
⑦(2)	32.3 —
⑧(1)	64.5 +
⑧(2)	30.6 —
⑧(3)	29.0 —
⑨(1)	56.5 +
⑨(2)	54.8 —
⑨(3)	32.3 +

概要

本校の正答率が53%で、府55%、全国57%を下回る結果となった。無回答の割合は選択式では0%、その他の問題においても平均値より少ない傾向にあり、問題を解こうとする意欲が見られる。

特に成果が見られた問題例

①の正負の数を用いて表す問題や、⑥(1)の成り立つ式を表す問題、⑧(1)の角度を文字を使って表す問題は全国平均を上回る結果となった。また、⑨(1)の累積度数の問題では全国平均を10ポイント以上上回り、基礎的な問題や計算においてはしっかりと定着が確認できる。

特に課題が見られた問題例

④、⑦(1)の関数や⑤の確率の問題では、全国平均を下回っており、大きな課題が見られる。また、⑧(2)(3)の証明問題においては正答率30%前後と全国平均を大きく下回り、⑨(2)の箱ひげ図の問題は全国平均を20%下回り、数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多く、思考・判断を表現する学習活動を設定していかなければ

全国学力・学習状況調査の概要

英語

設問番号	学校の 正答率
1	53.3 ー
5	60.0 +
6	76.7 +
10(1)	41.7 ー
10(2)	35.0 +
11(1)	61.7 +
11(2)	53.3 +

令和8年度調査では、1人1台端末を活用して、全ての領域の問題をC B Tで実施しています。

英語の調査はIRTが導入された。IRTとは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じ尺度で比較できる。生徒1人あたり公開問題7問と非公開問題15問が出題される。非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。個人の結果は5段階のIRTバンドで表示・返却される。5段階のIRTバンドは、各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評定とは異なる。公開問題7問について正誤状況をもとに分析している。全国に共通する公開問題において、本校の平均正答率は全国や大阪府の正答率と0.1高く、ほぼ同じであった。技能別(聞くこと・話すこと・書くこと)においても同様の結果となっている。本校のIRTスコアは511であり、全国は499、大阪府の499よりやや高い。

特に成果が見られた問題例

6 (読むこと) 文章を読み、グラフの空所に入れる選択問題はきわめて正答率が高かった。グラフの情報で最上級、比較級の読み取りができている。5 (聞くこと) スピーチを聞いて話し手が最も伝えたい情報を選択する問題では6割以上の正答率で全体の要旨をつかむことができる。10(2) (書くこと) では、書き手の意見に対する自分の考えは述べられているが、なぜそう考えるのかを理由をつけて表現することができない生徒が4割いた

特に課題が見られた問題例

1 (聞くこと) は注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する問題が全国正答率より0.7ポイント低かった。

cannot ～any ... の完全否定が定着できていない。

10(1) (読むこと) ではインターネットの使用に関する文章を読み、書き手が伝えたいことを選択する問題が、全国正答率より0.6ポイント低かった。文章中からの表現を読み取り、正誤であるかは判断できるが、最も伝えたいこと(主旨)をつかむことができていな

学習状況調査の概要

基本的な生活習慣を問う質問では、「毎日同じ時間に起きる（95.0%）」や「毎日朝食を食べる（91.7%）」は府や全国と同水準でした。一方で、「毎日同じ時間に寝る（80.0%）」はやや低く、「平日に1日3時間以上、スマホ等でSNSや動画を見る（60.0%）」は府や全国より高い結果となりました。このことから、デジタル機器の使用時間が長い実態がうかがえる。学校生活を充実させるためにも、望ましい生活習慣（特に就寝時刻やメディア利用時間）の確立が今後の課題である。

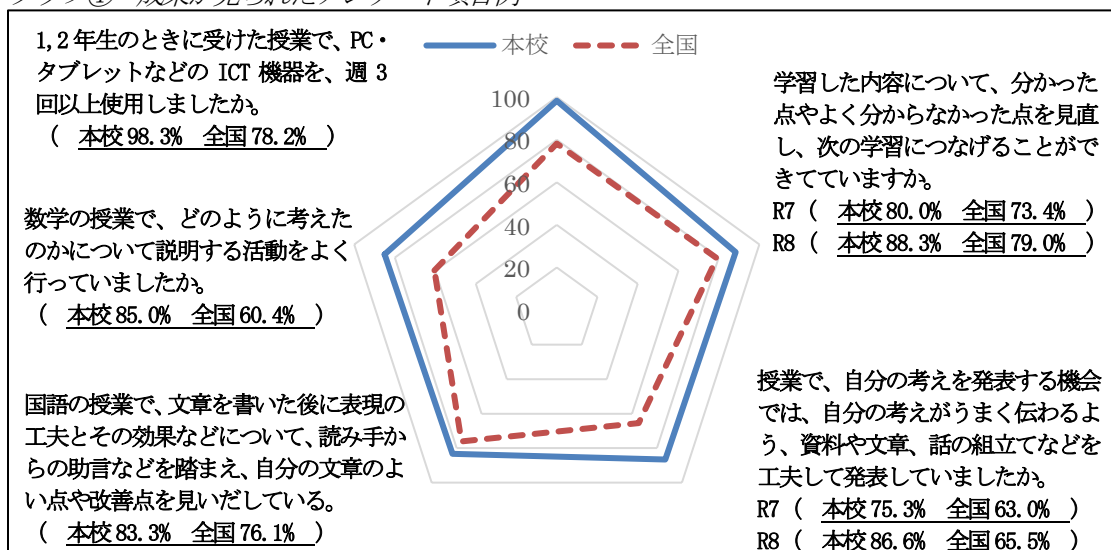
家庭での学校に関する会話を問う質問に対し、「月に1,2回以上学校の勉強のことについて話す（88.3%）」、「月に1,2回以上学校での悩みについて話す（71.7%）」は府や全国に比べ高く、家庭での関心の高さや、子どもが相談しやすい環境が整っていることを示している。

自分自身や学校生活に関する質問では、「学校に行くのが楽しい（86.7%）」「自分にはよいところがある（83.4%）」「先生がよいところを認めてくれている（96.7%）」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（73.3%）」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う（98.3%）」など、多くの項目で府や全国を上回る数値であった。一方、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある（81.7%）」については、府や全国と比べると肯定的な回答がやや少ない結果となっている。

学習に関する質問では、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（1時間以上が60.0%）」と、府や全国と比べると短い学習時間となっている。土日などの休日に関しても（1時間以上が51.71%）と短い。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することができる（86.7%）」と府や全国より高い数値であった。（学習に関連する各項目に関しては後述）

地域での暮らしに関する質問に対し、本校では地域と子どもとのかわり合いが増えているものの、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（71.7%）」は、全国より肯定的な回答が少ない結果となっている。

グラフ① 成果が見られたアンケート項目例



特に成果が見られたアンケート項目例

本校では、対話を通して自分の考えを深め表現できる生徒の育成を目指し、課題について自分で考えたり、他者と対話したりする時間をつくるためにタブレット端末を授業に積極的に取り入れている。グラフ①が示す通り、高い使用頻度を反映し、情報収集やスライド作成などの ICT 活用力は府・全国に比べ高く、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、効果的に活用している。

また、各教科での「話し合い・説明・英語での意見交換」といった活動に対する肯定的回答も高く、「思考・判断・表現を高める」取り組みの成果が表れていた。

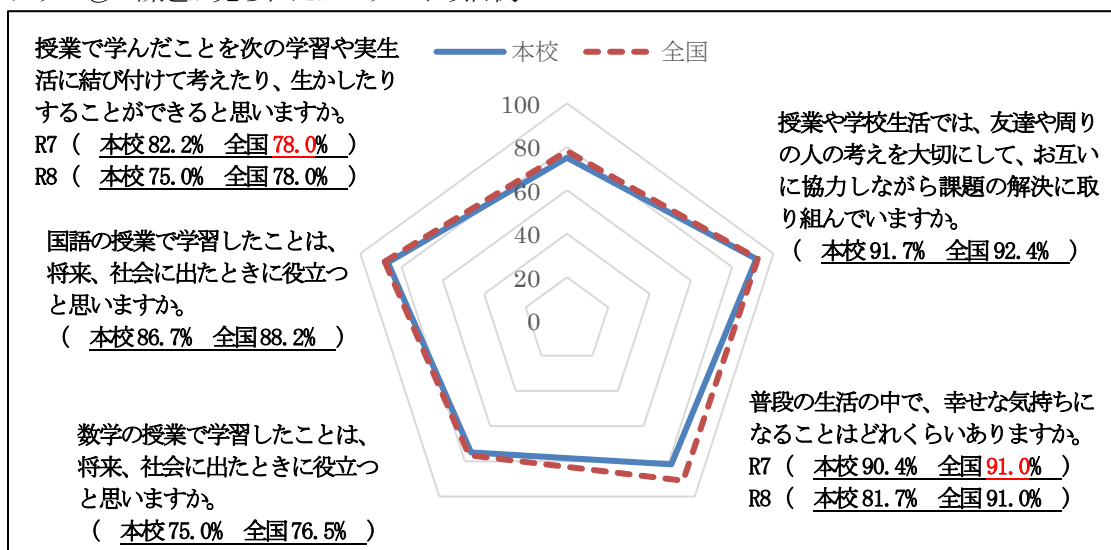
さらに、昨年度課題として見られた「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」といった「学びの自己調整力」を見る質問では、今年度は府・全国を上回り、自力で解決しようとする「主体的に学ぶ姿勢」が着実に育っている。

特に課題が見られたアンケート項目例

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では肯定的回答が高いものの、「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」や「国語や数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと感じますか」の肯定的回答がやや低く、学んだことの有用性や社会的意義を実感させる取り組みに、課題が残っている。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の肯定的回答が低く、子どもたちが日々の達成感や周囲とのつながりを実感できるよう、集団活動での役割づくりや温かい人間関係づくりの取り組みを深めていく必要がある。

グラフ② 課題が見られたアンケート項目例



調査結果を受けて

全国学力学習状況調査について

文部科学省は、全国学力・学習状況調査の目的を以下の3点に掲げています。

- ・教育施策の成果と課題を検証し、改善につなげること
- ・学校での学習指導の充実や、子どもの学習状況の改善に役立てること
- ・これらを通じて、教育の継続的な検証・改善サイクルを確立すること

また同時に、「この調査で分かるのは学力や学校教育の一部分にすぎない」とし、学校間の序列化や過度な競争を生まないう、教育的な影響への十分な配慮も求めています。

こうした背景を踏まえ、今回の結果はあくまで子どもたちの学力の一側面、あるいはひとつの傾向を示すものとして、冷静に受け止めていただけますと幸いです。

学校が重点的に取り組んでいくこと

学校では、今年度の学力向上目標である「対話を通じて、自分の考えを深め、根拠をもって表現できる生徒の育成」の更なる達成と、調査から見えた課題の克服に向けて、以下の取り組みを重点的に推進します。

・**根拠や理由を用いた表現力・説明力の育成**

今回成果のみられた国語での表現効果や授業での ICT 等を活用した発表活動やグループワークなどを生かしつつ、数学の証明問題の説明、英語の意見に対する「理由の記述」など、「なぜそう考えたのか」を論理的・言語的な根拠をもって表現・記述する学習活動をさらに推し進めます。

・**基礎的知識・技能の反復と定着**

国語の文法知識、英語の文法や長文の主旨把握、数学の関数・確率など、課題が見られた領域について、反復練習や丁寧な学び直しを行い、思考・表現の土台となる知識の定着を図ります。

・**学びの有用性・実効感を実感できる授業づくり**

各教科で学んだことが「実生活や将来社会に出たときにどう役立つか」を結びつけて考えられるよう、単元の導入やまとめにおいて具体的な活用事例や問題解決的な課題を取り入れます。

・**集団活動を通じた温かい人間関係・貢献感の育成**

互いの考えを尊重し協力して課題解決に向かうグループ学習や、行事や普段の学校生活での役割づくりを推進し、生徒一人ひとりが自己有用感や達成感、「なかまとのつながり」を感じられる環境を整えます。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

授業での積極的な意見交換や発表工夫（ICT 活用など）、自力で復習する姿勢などの強みをさらに伸ばし、自らの考えをより明確に伝えられるよう、以下に挑戦してください。

・「理由や根拠」をセットにして考え、表現する習慣をつける

自分の考えや意見をもつだけでなく、「なぜそう思うのか」「どんな資料・式・知識が根拠になるのか」まで意識して発言したり、ノート・回答に書いたりしてみましょう。

・基礎知識のコツコツとした反復学習に取り組む

国語の文法や英語の決まり文句、数学の関数・確率などの苦手な分野は、繰り返し問題を解くことで基礎をしっかりと固めましょう。

・学んだことを「生活や将来」と結びつけて考えてみる

授業で習ったことが「日常生活のどんな場面で使われているか」「将来どのように役立つか」を意識し、興味・関心をもって学習に向かいましょう。

・家庭での自主学習時間を確保し、計画的に取り組む

平日・休日ともに自分で学習時間を確保し、分からなかった点を見直すなど、自分に合った学び方を工夫して学習を習慣化させましょう。

・友達の考えを大切にし、互いに協力して課題解決に向かう

対話の場面では、友達の意見に耳を傾け、お互いの良さを認め合いながら、協力して学びや学校生活を高め合いましょう。

保護者のみなさまに協力していただきたいこと

ご家庭では、高い関心をもって子どもたちの勉強や悩みに寄り添っていただいております。学校での学びをさらに深め、正しい生活習慣を育むため、以下の点についてご協力願います。

・対話を促す「問いかけ」と「聴く姿勢」のご協力

ご家庭での会話の際、「今日学校でどんなことを考えた？」「どうしてそう思ったの？」など、お子様が自分の考えやその理由を言葉にして話すきっかけを作っていただけると幸いです。また、良いところを認め、思いを丁寧に聴くことで、自己肯定感や表現力、発信力を育みます。

・望ましい生活習慣の確立（特に就寝時刻とメディア利用時間）

スマホや動画・SNS などの利用時間が長く、就寝時間が不規則になりがちな傾向が見られます。家庭でのルールづくりや利用時間の見直しを行い、規則正しい生活リズムの維持に協力ください。

・家庭学習の習慣化への声かけと見守り

平日・休日ともに自主学習時間をしっかりと確保できるよう、落ち着いて勉強に取り組める環境づくりや温かい声かけをお願いいたします。

・地域や社会との関わり・貢献への意欲を育むサポート

地域活動や身近な社会の話題について家庭内で話したり参加したりする機会をつくり、地域社会や他者の役に立ちたいという気持ちを育むサポートをお願いいたします。